

保護者 様

佐世保市立歌浦小学校
校 長 堤 祐子
校内研究 家庭学習部

「自学力向上プラン」へのご理解とご協力のお願い

9月に入ったとはいえ、依然として厳しい暑さが続いております。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動への温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、現在、社会は変化が非常に激しく、予測困難な時代を迎えています。このような時代を子どもたちが力強く生き抜いていくためには、「自ら学び、自ら考え、自ら行動する力」を身に付けることが極めて重要です。本校では本年度、子どもたちが「確かな学力」を自分の手で育てていけるよう、校内研究の重点として「家庭学習(自学)の推進」を掲げ、子ども一人一人に適した『自(ら)学(ぶ)力向上プラン』を全校で推進していくこととなりました。

自学は、授業で学んだことを深め、自分の興味・関心を広げるための「個別最適な学び」の最も身近な手段です。子どもたちの「学ぶ楽しさ」を育み、学力をより一層向上させるためには、学校と家庭が手を取り合い、一丸となって支援していくことが不可欠です。ぜひ本取組へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 自学を通して目指す子どもの姿

自分の学びを振り返り、高める子ども	自分の学びや友達の学びを振り返り、次の学びに繋げることができます。
粘り強く取り組む子ども	自分で課題を見つけて、最後まであきらめずに続けて取り組むことができます。
自ら問い、学びを深める子ども	授業で学んだことを自学でさらに確かめたり、調べたりして、学びを広げることができます。
学びを伝え合う子ども	自分の考えや学びの成果を、友達や家族に伝えることができます。

2. 自学を充実させるための具体的な取組

学校では、子どもたちが自発的に楽しく自学に取り組めるよう、以下の4つのステップでサポートを行います。

① 自学メニューの提示

それぞれの学年に合わせた多様な「自学メニュー」を提示します。子どもたちが自分の課題や興味に合わせて、自ら内容を選んで学習をスタートできるよう支援します。

② 自学の目安時間設定

宿題と自学を合わせて「学年×10分+10分」という目安の時間を設定します。例えば3年生なら30+10=40分となります。これは学習習慣を身に付けるための「目安」であり、強制やペナルティを伴うものではありません。少しずつステップアップしていけるよう配慮します。

③ 「学習がんばりカード」の使用

毎日、学習活動をカードに記録し、自分で振り返る習慣をつくります。保護者の皆様にもこのカードを通じて、子どもが今どんなことに興味を持って取り組んでいるかを知っていただくきっかけにしていきます。

④ 頑張りを「ひらき、価値づける」場の設定

校内では「自学グランプリ」や「ノート展」、各クラスでの「紹介コーナー」などを設け、子どもたちの努力をオープンにし、お互いに認め合える場を作ります。担任は一律で「シールやスタンプ」を活用し、長文のコメントは書かないルールにすることで、スピーディーかつ多くの場面で児童の頑張りを受け止め、価値づけていきます。



歌浦小学校 自ら学ぶ力向上プラン

～自ら学ぶ力を育てる自学の充実を目指して～



1. 提案の背景

〈子どもたちのために〉



- 変化の激しい社会を生きるために、「自ら学び、自ら考え、行動する力」が必要。それを身に付ける方法が自学。
- 授業で学んだことを深め、広げることで「確かな学力」が育つ。

〈保護者のために〉



- 「声掛けや見守りが負担になる」「声掛けや関わり方が分からない。」そんな声に寄り添った自学。
- まずは子どもの学習に興味や関心をもつという第一歩を支援する。

〈教職員のために〉



- 「自学を始めることでまた丸つけやコメントの負担が増える。」といった声に寄り添った自学。
- 自学をとおしてさらに子どもたちと関わるができる。

2. 目指す子ども像

◎ 自ら学びを拓き、共に高め合う子ども

自分の学びを振り返り、
高める子ども（メタ認知）



自分の学びや友達の学びを振り返り、
次の学びに繋げることができる。

粘り強く取り組む子ども
（粘り強さ）



自分で課題を見つけて、最後まで
あきらめずに続けて取り組むこと
ができる。

自ら問い、学びを深める子ども
（探究）



授業で学んだことを自学でさらに
確かめたり、調べたりして、学びを
広げることができる。

学びを伝え合う子ども
（表現力）



自分の考えや学びの成果を、
友達や家族に伝えることができる。

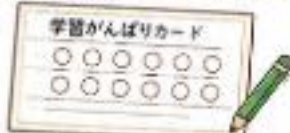
3. 自学を充実させるための取組

① 自学メニューの提示



それぞれの学年に合わせた
自学メニューを提示し、子どもが
自分の課題や興味に合わせて
選ぶことができるような支援をする。

② 学習がんばりカードの使用



毎日学習がんばりカードに記録
させることで、子どもが振り返る
ことができるようにする。また、
保護者が子どもの学習に興味関心
をもつことができるようにする。

③ 目安時間設定



宿題と自学を合わせて
「学年×10分+10分」という
目安の時間を設定し、学習習慣を
身に付けることができるようにする。

④ ひらき、価値づける場の設定



自学グラブリーやノート展、
紹介コーナーなど子どもの頑張りを
ひらき、認め合う場をつくる。

4. それぞれの役割

〈子ども〉

- 宿題+自学+学習がんばりカードを習慣化し、家庭学習のサイクルを確立する。
- 自分の課題だけでなく、興味があることや好きなことなど、「学びたい」内容でよい。
- 少しの時間でも毎日続けることを大切にする。



〈保護者〉

- まずは、学習がんばりカードへサインをすることで、そこから興味をもち、ページを開いたり、コメントを書いたりすることを目指す。
- 慣れてきたら、自学への関わり（問題作りや話題提供など）を進めていきたい。
- 家庭での会話の材料にする。「今日の自学面白かったね。」「今日は何を学んだの?」など。



〈教職員〉

- 将来的には、自学を中心とした家庭学習への移行を目指す。
- 学年の発達段階に応じて、自学の割合を高めていきたい。
- 学習がんばりカードや自学ノートへのコメントはしない。シールやスタンプのみで統一。他の先生や高学年の児童に見てもらったり、ノート展に応募したりして価値づけていく。



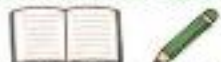
5. 評価方法

① 自学提出率の変容



提出率の変化を時期ごとに比較する。

② 自学の内容の質の変化



内容の広がりや深まり、工夫などを見取り、変化を分析する。

③ 児童アンケート



児童の意識や自学への取組に対する意識の変容を把握する。

みんなで支え合い、認め合うことで、自ら学ぶ力を育てていきましょう!